

令和7年度 福井県立ろう学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
<p>1 教育課程 学習支援 幼児支援</p> <p>幼稚園</p>	<p>朝の話し合い活動を通して、幼児の考える力を育てるための環境設定や教師の関わり方を工夫する。</p> <p>目標：定期的に授業検討会を実施し、授業改善に取り組む。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%,成果指標100%,満足度指標100%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりシートを用いて、子ども達の姿をイメージしながら、具体的に検討ができた。 ・子ども達の考える力を育てるための環境設定や教師の関わり方を教員間で共有することができた。 ・教師の関わり方を見直すことで、子ども達が、自分なりに考えて発言したり、活動に取り組んだりする姿が見られた。 ・保護者に授業を参観していただく中で、子ども達の姿を伝え、高い満足度を得ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの気持ちの動きをうまく扱いながら、授業を展開する」「問いかけたら待つ」「子どもの言いたいことを読み取り適切な言葉にして促す」等、子どもの考える力を育てるために挙げられた様々な視点や課題をいかに意識しながら授業づくりを行っていくかが課題である。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の考える力を育てるために大切にするとい様々な視点については、授業づくりシートに盛り込み、授業を検討する際に意識しながら取り組めるようにしていきたい。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象とする授業について教職員全員で意見交換しながら、授業づくりができたことは大変有意義であった。次年度は、さらに対象とする授業を絞り、多くの教員で意見交換しながら授業づくりに取り組んでいきたい。
<p>2 教育課程 学習支援 児童支援</p> <p>小学部</p>	<p>児童が情報を得ようとする態度や考える力を身に付けられるように、授業を通してきこえや特性に応じた支援を工夫する。</p> <p>目標：児童のきこえや特性に応じた支援方法や学習活動について検討し、実践する。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%,成果指標100%,満足度指標100%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童数が5名に減ったことを踏まえ、全員が協働して取り組める場面を多く設定し、集団での活動ができた。 ・市場調査をしたり、タブレット端末で検索したりするなど、自ら調べる活動に積極的に取り組むことができた。 ・児童の発言から、情報活用の意欲が高まったことが窺える。 ・教師間では、「実践と評価から始める授業づくり」の表を活用し、PDCAを意識した授業改善に取り組んだ。 ・教師が自身の授業を振り返り、改善点や効果を検証し合い、次の実践に生かすことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の支援がある場面とない場面では、児童が自ら情報を取りに行こうとする態度に差があり、まだ十分に身に付いてはいないと考える。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が課題に直面した際に、提示された情報を活用したり、友達と相談したりして考える力を育てる。 ・児童の課題に対する理解度や、もっている情報処理能力を正確に把握し、支援を工夫する。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・丁寧なアセスメントを行い、授業づくりに生かすことで、児童がより主体的に情報を得たり、考えたりする力を育成していく。
<p>3 教育課程 学習支援 生徒支援 進路支援</p> <p>中・高等部</p>	<p>授業を通して生徒が問いや課題を見つけ、解決する姿勢・態度が身に付くように支援する。</p> <p>目標：生徒が問いや課題を見つけ解決できるように支援する。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%,成果指標81.3%,満足度指標100%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員がICT機器を利用した授業づくりの工夫を行った。 ・教員同士でICT機器の活用方法や授業展開について助言し合えた。 ・タブレット等を活用したり、教師に質問したりして疑問を解決しようとする生徒が増えた。 ・保護者には、授業の様子を録画したものを文化祭でモニター視聴してもらい、取組の様子を知ってもらった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「教師の説明が長くなる」「授業のパターンを変えづらい」といった教師の悩みについて話し合いや研修する場が少ない。 ・県下一斉のテストの範囲を進めるのに精一杯で、授業に余裕がない。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業を互見して意見交換する場を設けたり、教科会を実施したりする。 ・ICT機器を教科で活用する方法について研修する。 ・HP等を活用して、保護者への理解を深める。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成しているが、今年度の取組が1年目であるため、来年度も継続して取り組む。
<p>4 生活支援</p> <p>寄宿舎</p>	<p>寄宿舎生活の中で話し合いを必要とする場面において、自分の思いを伝え、相手の気持ちを汲み取る力が付くよう支援する。</p> <p>目標：寄宿舎生が自分の思いを伝え、相手の気持ちを汲み取る力が付くよう支援する。 80%以上</p>	<p>【取組指標100%,成果指標72.7%,満足度指標100%…未達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの場を定期的に設定したり、各舎生が互いに納得できるように確認を行ったりした結果、全指導員が「舎生は自分の思いを伝え、相手の気持ちや考えを汲み取る力が付いてきている」と感じた。 ・話し合いの様子を連絡帳や懇談で丁寧に伝えたことにより、保護者から高い評価を得た。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・舎生の話し合いの中で、清掃場所や入浴順等の具体的な希望は伝えられることはできても、相手の気持ちを汲み取る力はまだ付いていないと考える舎生がいたことが課題である。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・舎生が自分の思いを伝え、相手の気持ちを汲み取る力が付くように、話し合いの場で指導員は、自分の考えの優先順位を紙面にまとめさせた後に話し合いをさせたり、話し合いのポイントを箇条書きにして分かりやすく提示したりして、視覚的支援を取り入れる。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・舎生が自分の思いをしっかりと伝えたり、相手の気持ちを汲み取ったりしながら話し合いをする場面を増やす。また、指導員は、その場で舎生に良かった点や改善点を伝えるようにし、自信をもたせるようにする。

<p>5 センター 的機能 教育支援</p>	<p>各機関と連携し、難聴児に適切な支援や教育相談活動を行う。</p> <p>目標：各機関と連携・協力し、支援する。 90%以上</p>	<p>【取組指標100%,成果指標92.9%,満足度指標100%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級、教育相談に加え、難聴児在籍園・校への教職員研修、関係機関との連絡会・研修会を開催したところ、難聴児の困り感や配慮について理解してもらえ、環境の整備や伝え方の工夫が見られるようになった。通級や教育相談、移行支援等支援体制の充実を図る必要性を再認識した。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級児童の中には一生懸命取り組めなかったと感じている児童もいたが、発音学習が役に立った等前向きに捉えている児童が多いことが分かった。今後も在籍校と連携して児童に合った内容を実施していく。また、保護者の高い評価は連絡票や懇談等を通じた丁寧な関わりと情報交換の成果と考えるので、引き続き行う。 	<p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴児の切れ目ない支援における県の中核機能としての本校の役割は重要である。来年度も、関係機関への啓発を行い、理解を広めると共に、難聴児の早期からの継続的な療育、教育的配慮や支援の実現に努めたい。 <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者から、学校訪問の様子を文書でほしいとの要望があった。在籍校及び保護者との情報共有を深めるために、検討していきたい。
<p>6 教職員の 専門性 及び 授業力の 向上 図書研究</p>	<p>①専門性チェックリストを活用しながら積極的に授業参観し、感想や意見を伝え合う。 目標：授業参観を年に4本(うち他学部を2本)、寄宿舎指導員は2本以上行い、感想等を伝える。80%以上</p> <p>②ICT機器を効果的に活用し、自分の授業づくりに生かす。 目標：子どもの個々の実態に合わせてICT機器を活用した授業や活動を行う。80%以上</p>	<p>【取組指標① 83.6%,成果指標①-2 95.4% …達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の多くは、公開授業週間を中心に他学部の授業を含めて参観し、感想や意見を伝えることができた。 ・他学部の様子を知ることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに作成した専門性チェックリストの活用が不十分だった。 ・2つのリストを新たに作成したため、「合わない項目がある」「項目が多い」など、使いにくさがあった。 ・新たなリストの周知徹底がなされていなかった。 <p>【取組指標② 95.9%,成果指標② 88.6%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタルとアナログを融合した授業が増え、個々の学習スタイルに応じた柔軟な指導が可能になった。 ・児童が自らアプリを操作することで視覚的な理解が深まり、主体的な学びが実現できている。 ・ICT活用が単なる提示から、子どもの思考を深めるための手段として定着しつつある。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員間でICT活用スキルに差があり、学年や教科によって活用の頻度や質に偏りが見られる。 ・子どもの自由な活用が進む一方で、情報モラルや情報の真偽を判断する力の育成が急務である。 ・蓄積された学習データの活用が単発に留まっており、中長期的な分析や評価に繋がっていない。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門性チェックリストの内容や項目の見直しを図る。 ・研修や研究会で取り上げるなどして内容の周知を行う。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストの活用法のについて検討し、公開授業週間前に周知する。 <p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修や事例共有会を定期的で開催し、教職員全体のICT活用スキルの底上げと活用格差の解消を図る。 ・ICT活用のあらゆる場面を通じて、情報リテラシーや情報を正しく扱うための態度の育成を推進する。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習履歴を学年を越えて蓄積・共有できるプラットフォームを整え、継続的な指導と分析に活用する。
<p>7 人権教育 の 推進 学校全体</p>	<p>③学校生活全般において、手話や文字や画像等の多様な視覚情報を提示する。 目標：子どものニーズに応じた手段を用いて情報保障を行う。80%以上</p>	<p>【成果指標97.9%,満足度指標92.5%…達成】</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を基に、行事での情報保障の方法を改善することができた。 ・全教員が、ニーズに応じた視覚支援および指導を行おうとする意識は高く、子どもたちもそれにほぼ満足している。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休み時間など、授業や行事以外の場面で伝わりにくさや不安を訴える児童生徒もおり、学校生活全般において子どもたちのニーズに応えられているか、という点で課題が残る。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続きアンケートを実施し、子どものニーズや心理面での実態を教員間で把握、共有する。 ・授業や行事以外の場面や教員同士でやり取りする場面での情報保障について積極的に改善を求めていく。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報保障係、研修係、ICT機器係が連携・協働し多様な視覚情報を提示するための専門性向上を目指す。
<p>7 人権教育 の 推進 学校全体</p>	<p>人権研修や幼児児童生徒に関する情報共有を通して、いじめ防止を含めた教員の人権意識の向上を図る。自己理解や他者意識を促す指導などを通して、児童生徒の障がい認識を育む。</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員対象に研修動画を視聴した。「セクシャル・マイノリティ」について教師自身が理解を深めることで、児童生徒も「セクシャル・マイノリティ」についての見解を得ることができるとの見解を得た。 ・児童生徒には、自立活動や交流学习を通して、自己理解や他者への思いやりを育み、インターネット上の人権について考える機会を設けることができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報保障については、子ども達の人権を守るために必要なものだという認識を全教職員が共通理解する必要がある。 ・今年度、いじめに関する相談も見られた。未然防止を図るとともに個の状況を把握しながら丁寧に対応していく必要を感じた。 	<p><改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報保障では、職場内で手話やUDトークの研修会等を行い、教職員の意識と技術の向上を図る。 ・個の状況を把握して丁寧に対応するために研修等を通していじめ防止・対応への意識向上を図る。 <p><向上策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒に対しては、引き続き情報モラルやいじめ等を含めた気掛かりな状況把握に努め、教育活動全体を通じて、自己肯定感を育み、互いに尊重しながら成長できるように指導・支援に努める。